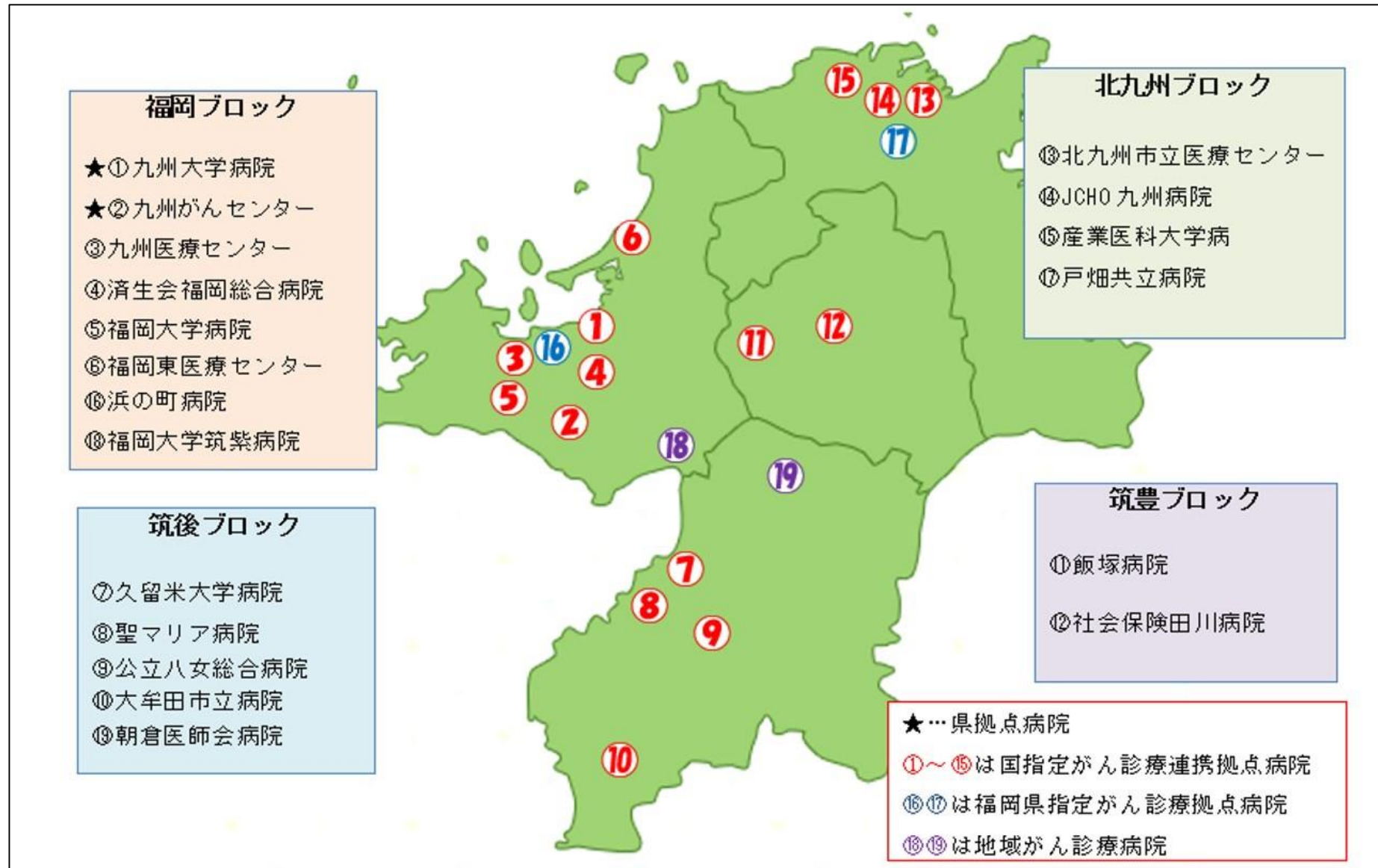


地域相談支援フォーラムin大分

～福岡県の実践～

福岡県がん相談支援センター



平成29年度 福岡県がん診療連携拠点病院

H29 年度 福岡県がん専門相談員活動計画予定 (H29. 8. 21)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H30 1 月	2 月	3 月
地域連携・情報専門部会 2 回 (九州がんセンター)						●21 日						●未定	
相談員連絡会議													●
ワーキンググループ					●5 日	●21 日	未 定						
福岡県 A 研修 (担当: 九州がんセンター)				●24 日 25 日									
福 岡 県 B 研 修	北九州ブロック	4 月・7 月・10 月・2 月 連絡会議								●25 日			
	筑豊ブロック									●4 日 図書館祭		●27 日	
	福岡ブロック						●2 日			未 定			
	筑後ブロック	毎月第 2 土曜日 14:00～16:00 連絡会議								●11 日 B 研修 市民公 開講座			
九州沖縄地域相談支援 フォーラム (大分)												●10 日	
国立がん研究センター指導者研修				●29 日					●2 日 3 日				
指導者スキルアップ研修				●9 日	●27 日				●22 日 23 日				
患者申出療養コース (E ラーニング)		4/3～10/31 講義 3 科目											
図書館との連携 (レファレンス研修)									●27 日				
就労支援に関する研修会									●11 日				

実施状況チェックリスト定義・解釈の統一

福岡県 がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリスト(がん相談支援センタープロセス指標)定義・解釈表 20170821WG検討分					
アウトカム			プロセス		
患者や家族および市民			がん相談支援センター		
最終目標	準最終目標	必要な条件	必要な条件・状態	実施状況の例示	定義・解釈
		相談の場があると感じる人が増える	その人にとってアクセスしやすい相談場所・相談の入り口がある	・センターの窓口をわかりやすく提示した	・相談者がセンター窓口に通じるための道標・案内版などの表示をした ・院内見取り図にセンター窓口の掲載をした
		相談支援センターの役割を知っている人が増える	多様な相談先がある 複数の相談場所がある	・センター外（院外）で出張がん相談を行った。 （例、出張がん相談、地域のイベントに参加して相談ブースを設けた等） ・ピアサポートの場をつくった （患者会・がんサロンなど）	自施設単独若しくは他施設共同で院外に相談ブースなどを設けた ・院内外で患者会やがんサロンなどピアサポートの場を設けた
		患者が孤立しない	情報や助けを求めている人に気づく人が増える	・がん相談支援センターの案内を個別に配布している（カード、ちらし、等々）	・がん相談支援センターの案内カード、ちらし等を相談者にわかりやすい場所に配布若しくは設置している
		適切な相談窓口につながる人が増える		・主治医からがん相談支援センターを紹介するしくみがある	・主治医からがん相談支援センターを紹介する方法・手段・流れを明示したマニュアル等がある ・主治医から相談者へがん相談支援センターを案内する情報提供資材(カード、チラシなど)がある
		院内・外へセンターの周知が行われる ・医療従事者（院内・外）が相談支援センターの役割を知っている		・主治医以外のスタッフからがん相談支援センターを紹介するしくみがある	・主治医以外のスタッフからがん相談支援センターを紹介する方法・手段・流れを明示したマニュアル等がある

平成27年～29年 チェックリスト結果

3年間の結果

- 平成28年度に地域がん診療病院が2施設追加
- 定義付けをしたことで評価が下がった

- ・センターの窓口をわかりやすく提示した
- ・センター外（院外）で出張がん相談を行った。
 - ・ピアサポートの場をつくった
- ・がん相談支援センターの案内を個別に配布している
- ・主治医からがん相談支援センターを紹介するしく
- ・主治医以外のスタッフからがん相談支援センター
- ・入院時にすべての患者へがん相談支援センターを
 - ・病棟カンファへ参加した
 - ・症例検討会へ参加した
 - ・医局会でPRした
- ・新人オリエンテーションで案内した
 - ・各病棟研修会でPRした
 - ・ICに同席した
 - ・パンフレットを設置した
 - ・ホームページへ案内を掲載した
- ・院内にがん相談支援センターの案内を掲示した
 - ・拠点病院一覧表を配布した
- ・就労支援を通してがん相談支援をPRした
 - ・患者サロンのポスターを掲示した
- ・患者サロンの開催予定入りポスターを掲示した
 - ・開催案内をリンクナースに配信した
 - ・患者会のリストを提示した
 - ・患者会のチラシを配布した
 - ・患者会の運営支援を行った
- ・相談員研修を受けた（国立がん研究センターが主
 - ・院内勉強会に参加した
 - ・事例検討会を行った
- ・課題の共有や解決法の共有を行った（各センター
 - ・共有された課題や解決法について病院幹部、県部、科学的根拠や信頼できる情報に基づく情報整備、更新、科学的根拠や信頼できる情報に基づく情報整備、更新、よりよい相談対応に向けたQA活動を定期的に行った、緩和ケアチームとのカンファレンスを実施した
 - 他部署とのカンファレンスを実施した
 - ・すべての利用者に対して公平に対応した
 - ・中立的な姿勢ですべての相談者に向き合った
 - ・個人情報取り扱いについてセンター内で定めた
 - ・センター内で定めた個人情報取り扱いを遵守した
 - ・院内の医療者からの相談に対応した
 - ・院外（地域）の医療者からの相談に対応した
 - ・院内外からの医療者からの相談内容や対応を分析、改善しうる課題について、病院幹部、県部会、都道府県、がんの冊子やリーフレットを配布した
 - ・地域の療養手帳やリーフレットなどを作成した
 - ・イベントの広報誌、メディア等への掲載依頼を
 - ・相談員で周知活動を行った（どんたく・リレー
 - ・協議会や部会へ参加した
 - ・協議会や部会での議題について共有した
 - ・拠点病院相談支援センターのMLを活用した
 - ・（新しい話題を入れた）患者や市民向けの講演会
 - ・（新しい話題を入れた）院内医療従事者向けの講
 - ・地域の医療関係者や就労支援等関係者向けの講演
 - ・地域ケアマネ等の研修会でPRを行った
 - ・病院のある地域の市町村役場に出向いた
 - ・挨拶回りを行った
 - ・就労支援ナビゲーター、社会保険労務士、産業力
 - ・保健医療福祉行政機関などに対してがん相談支援

がん専門相談員の研修会体制

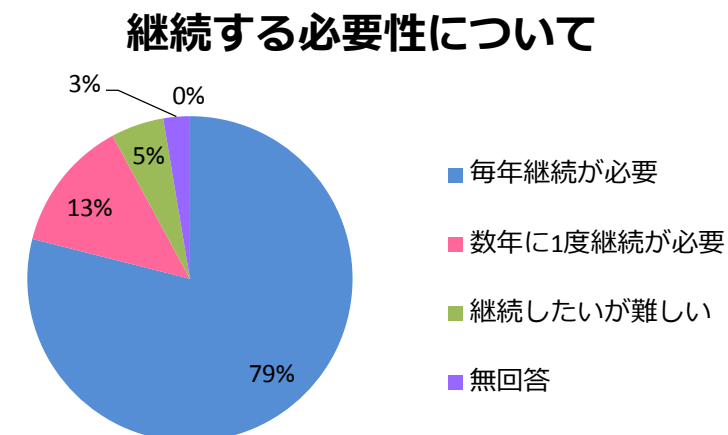
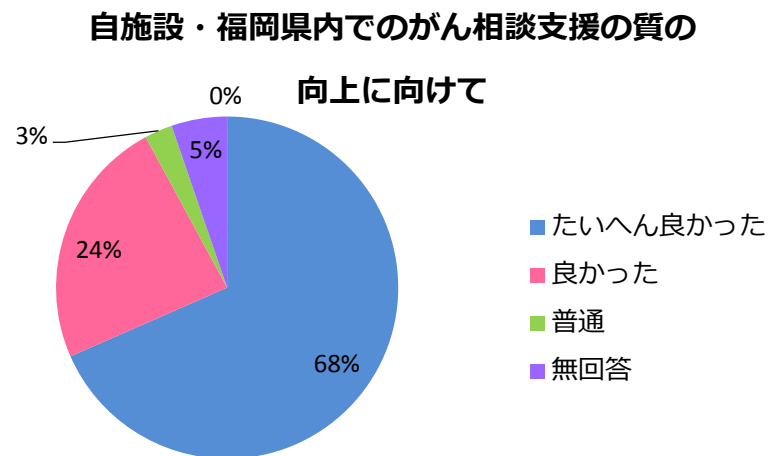
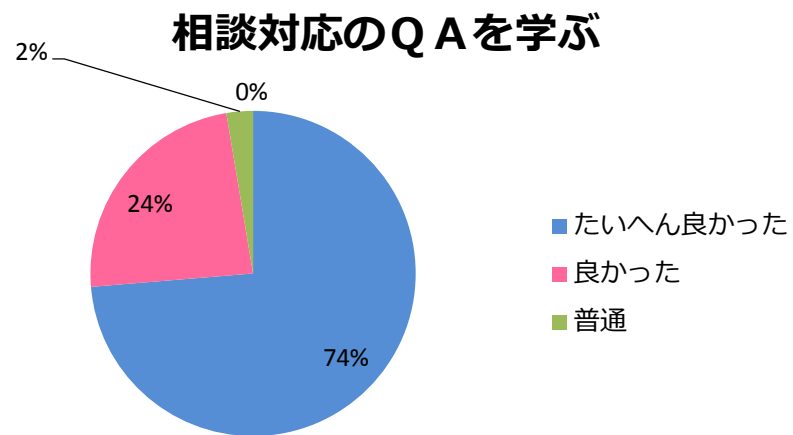
	A 研修会	B 研修会
対象者	がん相談支援センター がん専門相談員	広くがん医療や相談支援に係る従事者
目的（学習目標）	・ 相談支援の知識、技術の向上 ・ 研修企画運営の向上 ・ ファシリテーション力の向上	・ がん相談支援のプロセスを学ぶ ・ がん相談支援センターの役割を知る ・ 相談員や施設間の情報共有と連携
企画運営	指導者研修会を受講した相談員	各ブロックのがん専門相談員
対象地域	県全体	各ブロック
内容	H26年6月28日 コミュニケーション H27年7月18日 面接技法 H28年7月23日 意思決定支援 H29年6月24日25日 相談対応のQA （Quality Assurance）を学ぶ	北九州：「福岡県のがん対策について」 「がん相談支援センターの取り組み」 「がんと診断されたときからの緩和ケア」 筑豊：「相談支援のプロセスについて」 ～訊く・聞く・聴くの違いを意識する～ 筑後：「療養先選定の意思決定支援について」 福岡：「コミュニケーション技術を高めよう」 ～即、使える実践編～

A研修「相談対応のQAを学ぶ」報告

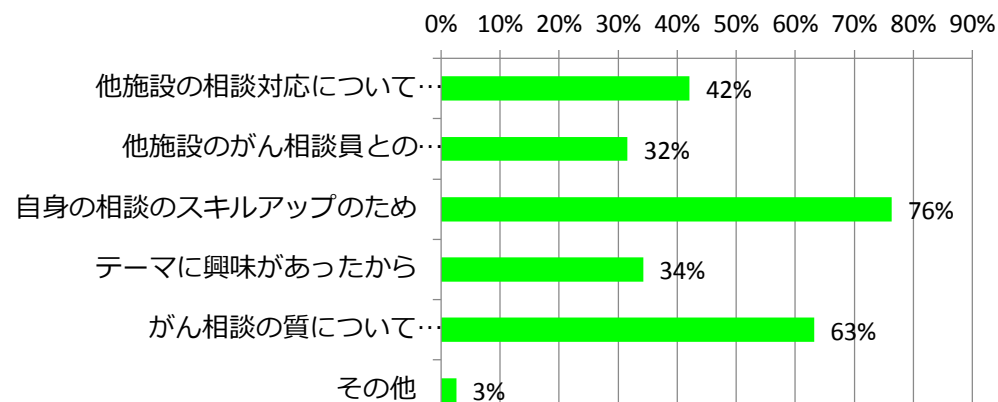
対象者	県内・県外のがん診療連携拠点病院の相談員		
日時	2017年6月24日・25日（土・日）10：00～16：00		
開催場所	九州がんセンター	参加者	24日：38名 25日：32名
学習目標	1）がん相談対応評価表（以下、「評価表」）の活用方法、目的、意義、ルールを理解する		
	2）「評価表」活用時のディスカッションの留意点を学ぶ		
	・グループワークでは、互いの意見を尊重し合い、積極的に理解する		
	・評価表を活用したディスカッションにおけるルールを遵守することの重要性を認める		
	3）グループワークで得た学びを自己の相談対応の改善に適応する		
	4）がん相談支援の質の管理と維持に重要な課題を説明する		
	5）所属施設や自分の地域で相談支援の質の向上を図るための課題を具体的に討議し、		
	今後につなげる		



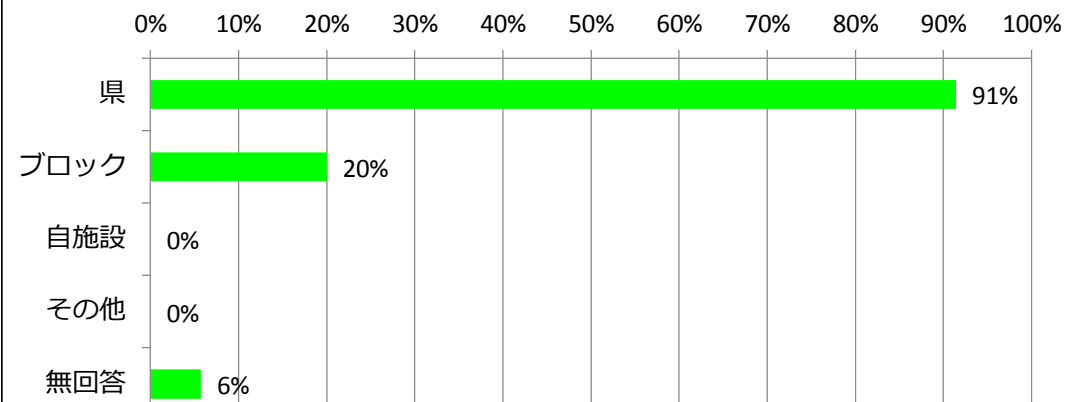
「相談対応のQAを学ぶ」アンケート結果 n = 50



研修会に参加した理由



継続研修を行う場合の実施単位



福岡ブロックB研修

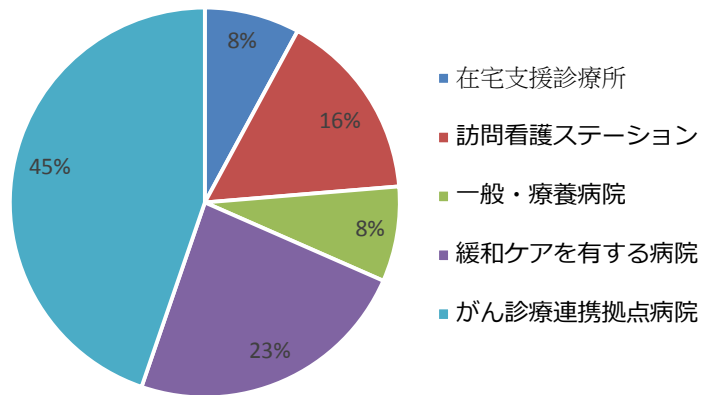
コミュニケーション技術を高めよう～即、使える実践編～

対象者	福岡ブロック地区でがんに携わる医療従事者	
日時	2017年9月2日（土） 14：00～17：00	
開催場所	九州医療センター	参加者 52名
学習目標	1）ロールプレイを通して、コミュニケーションの重要性が理解でき、技術を活用できる	
	2）がん医療に携わっている医療スタッフが、連携を強化し患者・家族の思いに寄り添うことができる	

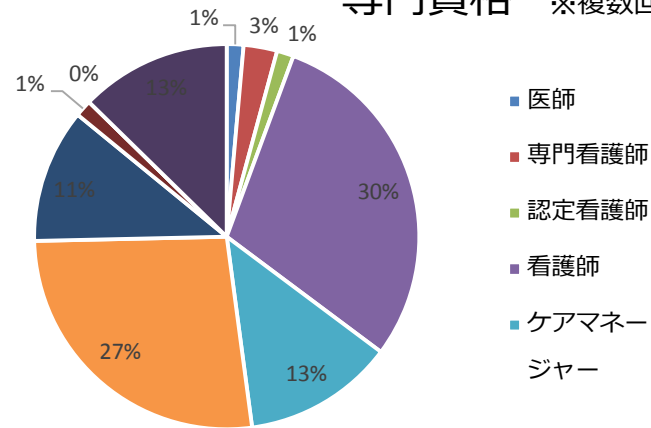


コミュニケーション技術を高めよう～即、使える実践編～ 講義直後アンケート結果 n = 50

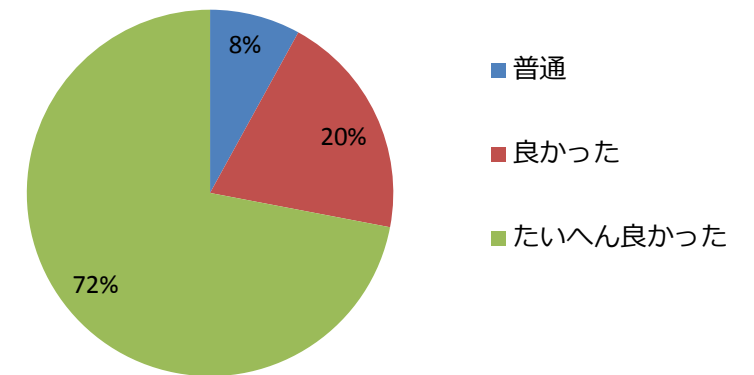
所属



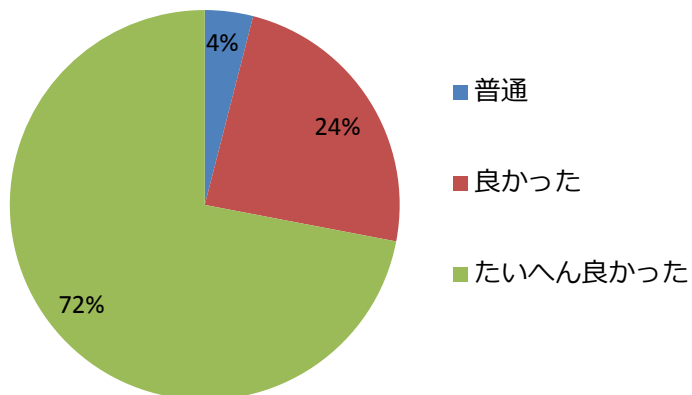
専門資格 ※複数回答



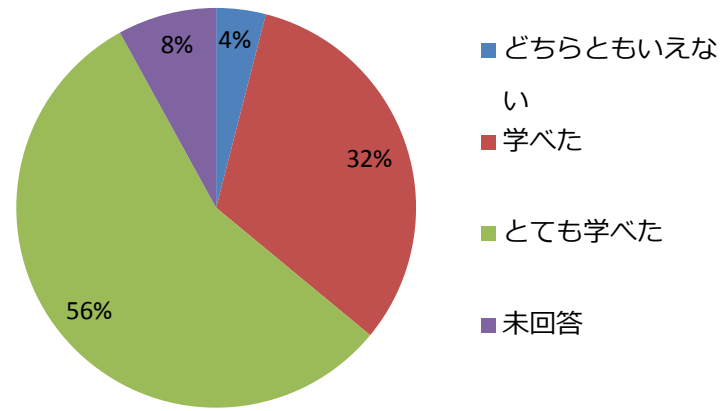
講義



ロールプレイ



研修の学び



＜今回の研修を受けてどのようなことが業務に活かせるか＞

- ・結論を急ぐことがあるが、話を傾聴して相談者が解決策を導くことができるようにしたいと思った。
- ・ACPの概念を意識して面談に望みたい。
- ・どのような聴き方をすれば話しやすいか学べたので活かしていきたい。
- ・今までのコミュニケーションの振り返りができた。面談に活かしたい。
- ・ACPの概念を意識して面談に望みたい。

今後の課題

- QA研修の結果、福岡県統一の内規を作成中で地域連携・情報専門部会に諮っていく
- 相談支援の質向上のために、A研修とは別にQA研修は毎年開催していく予定
- Q A 研修の継続：研修方法の検討

ご清聴ありがとうございました<m(__)m>